

研究・調査報告書

報告書番号	担当
280	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Interventions to reduce harm associated with adolescent substance use. 青年期の薬物使用に関連した障害低減のための介入研究	
執筆者	
Toumbourou JW, Stockwell T, Neighbors C, Marlatt GA, Sturge J, Rehm J.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Lancet. 2007 Apr 21;369(9570):1391-401. Review.	
キーワード	
青年期、薬物使用、喫煙、飲酒、レビュー	
要 旨	
<p>目的：</p> <p>先進国では、若者の傷病や死亡の多くの部分がアルコールや違法薬物の乱用に起因している。青年期のアルコールや薬物の使用パターンは生涯を通じてほぼ変わらず持続し、その後のアルコール・薬物使用のパターンや罹患、死亡を予測することが知られている。したがって本研究では、青年期の薬物使用に関連した障害の予防・低減を目的とした介入のエビデンスを要約するために系統的レビューを行い、これまでの知見をまとめた。</p> <p>結果：</p> <p>不安定な家族や学校、共同体における有害なアルコール・薬物摂取行動の生起を防ぐための予防的介入の開発や、薬物使用の魅力を減ずるための一般的方略に関して、介入効果の確証が得られていることが示された。コストを引き上げ、薬物/アルコールへ近づきにくくし手に入りにくくするなど目的に、種々の規制を中心とした介入が行われていた。その結果、価格の引き上げ、使用できる場の制限、購入できる法定年齢の引き上げが、アルコールやタバコの使用とそれに関連した障害を減じる効果があることが示された。スクリーニングや短期介入は効果があるように見受けられたが、さまざまな治療法の有効性が十分に確立しているとは言い難かった。危険度の高い、注射による薬物使用を行っている若者では、危害削減を目指した介入が効果的であった。</p> <p>結論：</p> <p>青年者の喫煙率、有害なアルコール飲用、および違法な薬物使用は、規制・早期介入・危害低減アプローチを組み合わせた一連の取り組みで減じることが示された。</p>	